

1-③ 国際的視点に立ち、自らの考えを発信できる力を育成する

取組 7	豊かな語学力の育成を目指した外国語教育の推進
------	------------------------

【担当所属：義務教育課 高校教育課 総合教育センター 県立女子大学】

## 1 現状

近年、グローバル化の加速的な進展により、様々な人々と協働し、問題を解決したり新たな考えや方策を生み出したりすることのできる人材が求められています。国際舞台で活躍していくためには、日本の文化に対する深い理解を前提とした、語学力が必要です。言語は、コミュニケーションツールとして重要なだけでなく、その能力を育むことで社会性も培われます。特に、国際共通語である英語によるコミュニケーション能力の育成について、小・中・高校が連携し、効果的・系統的に取組を進めていく必要があります、小学校からの積極的な取組が求められています。

### (1) 小・中学校

小学校では、平成23年度から外国語活動が完全実施され、県内すべての小学校5・6年生でそれぞれ週1時間の授業が行われています。コミュニケーション能力の素地を養うことを目的として、ALTと担任のTT（チームティーチング）を中心とした様々な取組が行われ、県内の92.4%の小学校では月2回以上ALTとのTTが行われています。

中学校では、平成24年度から週当たりの時数が3時間から4時間になり、指導すべき語数の増加や言語活動の一層の充実により、「読むこと」「書くこと」にも力を入れた総合的なコミュニケーション能力の育成を図っています。

#### ＜小中連携の現状＞

- ・校区内の小学校で行っている外国語活動の内容を把握している中学校の割合 47.2%
  - ・校区内の小学校で行っている外国語活動の内容を踏まえて授業を行っている中学校の割合 30.0%
- (第2回基礎基本習得状況調査(H24)群馬県教育委員会)

#### ＜本県生徒の英語力の状況＞

##### ① 中学校

- ・英検3級以上を取得及び3級以上相当の英語力を有する生徒（中学3年生）の割合 37.1%

##### ② 高校

- ・県立高校において英検準2級相当以上の英語力を有する生徒（高校3年生）の割合 36.2%

(英語教育実施状況調査 H25 文部科学省)

### (2) 高等学校

県立高校では、英語による言語活動を授業の中心とすることで、英語を通じて積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成と、情報や考え等を的確に理解したり適切に伝えたりするコミュニケーション能力の育成を推進しています。また、平成25年度は24名のALTを配置し、TTにより生徒の英語コミュニケーション能力の向上を図っています。

### (3) 県立女子大学

大学に付設する外国語教育研究所では、4技能（読む、書く、聞く、話す）の調和のとれた総合的英語能力の育成や、英語学習の動機付けと環境づくりを提言し、その実現のために、広く小学生から高校生、大学生、一般県民に対して様々な取組を実施しています。

## 2 課題

- (1) 小・中・高校における英語教育の円滑な接続を進めること
- (2) グローバル化の進展に対応できる人材を育成するための英語によるコミュニケーション能力を向上すること
- (3) 授業中、生徒が実際に英語を使用する機会を一層充実すること
- (4) 英語担当教員の英語力・指導力を更に強化すること
- (5) 英語教育における小・中・高・大学の連携を推進すること

### 3 取組の方向

- (1) グローバル化の進展に対応できる人材を育成するために、小学校1年から英語教育を導入します。
- (2) コミュニケーションのツールとして英語を使うことができるよう、小学校での学習を踏まえた中学校の授業改善を進めます。
- (3) 小・中・高校において、生徒の英語能力の到達目標を明確に設定します。
- (4) 小・中・高校の外国語活動担当教員及び英語科教員の英語運用能力を向上させます。
- (5) 英語教育における県内の小・中・高・大連携の在り方を検討します。

### 4 主な取組内容

- (1) 小・中学校における効果的な英語カリキュラムを開発し、モデル校での試行・実践を行い、全県に普及させます。
- (2) A L Tや英語に堪能な地域人材を効果的に活用した小学校英語の授業を行います。
- (3) 小・中・高校における英語教育の円滑な接続を図るため、各校種の授業を見合う機会を増やします。
- (4) 英検等の外部検定試験を活用して児童生徒の英語力や課題等を分析し、それらを指導の改善に生かします。
- (5) 英語を用いてできることを明確にするための小・中・高校で一貫した到達目標（CAN-DOリスト）の作成と運用に係る実践研究を推進します。
- (6) 県立高校に外国語指導助手（A L T）を配置し、T T等の活動を通して生徒が生きた英語に触れたり、実際に英語を使ったりする機会を充実します。
- (7) 外国語を使う機会の飛躍的増加、幅広い教養や問題解決力等の国際的素養を身に付けさせる教育を行うスーパーグローバルハイスクールの指定を受け、グローバル人材の育成に取り組みます。
- (8) 国際的な大学入学資格を得ることができる教育プログラムである国際バカロレアについて、情報収集等に努め、導入の可能性について検討します。
- (9) 教員の英語力・指導力強化を図るため、英検、TOEFL、TOEIC等の外部検定試験を受験するよう促します。
- (10) 小・中・高校の英語学習の一層の充実を図るため、教員の教科指導力や英語運用能力を向上するための研修を実施します。
- (11) 英語教育における県内の小・中・高・大連携を推進する「群馬フレームワーク」を提唱し、英語教育講演会等を開催します。

### 5 達成目標

目標の概要	基準年度の状況(H25)	目標年度の状況(H30)
(1) 中学校において実用英語検定3級以上相当の英語力を有する生徒の割合	中3 37.1%	中3 50%
(2) 県立高校において実用英語検定準2級相当以上の英語力を有する生徒の割合	高3 36.2%	高3 60%
(3) 中学校において授業の半分以上の時間、生徒が英語で活動している割合	48.8%	80%

### 6 他の施策分野における関連した取組

- (1) 県内高校と連携し、各連携校で年度内に3回ずつ、コミュニケーション活動を中心としたモデル授業を提供しています。
- (2) 本県の高校生に英語で発表する機会を提供し、英語によるコミュニケーション能力の向上に寄与することを目的として、「明石杯高校生英語コンテスト」を行っています。
- (3) グローバル人材育成を目的として、県内高校生を対象に「明石塾」を実施し、国際情勢、日本の現状や多文化理解に関する研修、35時間の英語研修等を行っています。  
(以上、県立女子大学（外国語教育研究所）)

